



YUAI ArcViewer – YUAI 書庫ビューア version 1.0.0.0 ユーザーマニュアル

Published: April 17, 2005

著者：Funabashi Koubou Office YUAI Chiba

発行日： 2002 年 4 月 初版
2002 年 6 月 改定

謝辞: このたびは『書庫ファイルビューア YUAI ArcViewer』をダウンロードいただき、まことにありがとうございます。この冊子はアプリケーションをお使いいただく上での基本的な操作等を簡単に説明しています。このアプリケーションは自分が使いやすく有用な機能を中心に実装してあります。
なお、御不明の点や不具合/要望等がありましたら下記アドレスまで御連絡いただければ幸いです。

mail@officeyuai.com

目次

目次	iii
概要	1
インストール(圧縮ファイルバージョン)	3
アンインストール	4
ほかに必要な DLL	5
アプリケーションの起動と終了	6
フォーム概要	8
メインフォーム	8
未編集(初期)画面	8
書庫ビュー画面	9
テキストビュー画面	10
印刷プレビュー画面	11
環境設定画面	11
アーカイバ DLL 情報	13
バージョン情報	13
実際に使ってみる	14
書庫ファイルの読み込み	14
書庫ファイルの内容を見る	15
ファイルをメモリ展開して開く	17
テキストビューア	17
テキストビューアで検索	19
テキストビューアから保存	19
テキストビューアから印刷	20
ディスクに解凍してアプリケーションから開く	20
詳細設定	22
一般オプション設定	22
組み込みエディタオプション設定	23
プレビューオプション設定	24

メイン画面詳細.....	26
メインメニュー	26
ファイルメニュー	26
表示メニュー	27
オプションメニュー	28
バージョンメニュー	28
コンテキストメニュー	28

概要

背景

現在のインターネット環境でパソコンを使用して必須のアプリケーションとして『圧縮/解凍アプリケーション』と呼ばれるものがあります。古くは MS-DOS 時代の LHa や Ish などから現在の Windows 環境に至るまで多くの恩恵を受けてまいりました。特に作者のようにプログラミングやシステム開発に携わるものには、インターネット上からさまざまなファイルを資料としてダウンロードすることを日常的に行っております。高速なインターネット回線や巨大な容量のハードディスクが普及されていてもやはり圧縮ファイルとはありがたいものです。

この『圧縮/解凍アプリケーション』と呼ばれるジャンルでは初期の Windows から優れたフリーソフトが作られ多くの方が使用されており、作者も使用させていただいております。-といってもその用途はダウンロードした圧縮ファイルを解凍することがほとんどで (Windows で ZIP 圧縮ができるようになってからは特に)、圧縮に使用することはほとんどなくなっています。その反面、昨今のセキュリティ問題に神経質になっており、インターネット上の知らないサイトからダウンロードした圧縮ファイルを簡単に解凍する気にもなれなくなってきました。圧縮ファイルを解凍してすぐに『ウイルスチェックアプリケーション』が起動したなどという経験を持つ方もおられるのではないのでしょうか。

作者の場合には、『C/C++、Java、Delphi』などの開発系のソースや Linux のスクリプトファイルなどの書庫ファイルのダウンロードがほとんどです。ダウンロードされたファイルは、Zip 圧縮は Windows で一時解凍し、それ以外は解凍ツールで解凍しエクスプローラから関連づけられたアプリケーションで開くことになります。そのときの問題として、1つのソースファイルを開くと VisualStudio や Delphi などの巨大な総合開発環境アプリケーションが起動してしまうことになります。また、テキストエディタで開くように関連づけを変更してしまうと本来の開発で不便です。

現在いわゆる『書庫ビューア』と呼ばれるアプリケーションもいくつかあります。エクスプローラ形式で書庫内をフォルダつきでブラウズでき、そのままファイルを見たい場合には一時フォルダに解凍してそのまま開くということもできます。それでもローカルディスクに解凍することには変わりはありません。(アプリケーションの終了とともに解凍されたファイルは削除されるのですが、Windows の Zip 圧縮の解凍ファイルは削除されずに一時フォルダにそのまま残ります)

通常作者は、メモ帳のかわりに Delphi で開発した自作テキストエディタを使用しています。これはもともとソースビューアコンポーネントをエディタとして実装したもので、C 系/Java/Delphi のキーワード/予約語/コメントの強調表示機能や Unicode 対応の自動デコードができます。『Terapad』ほど多機能ではありませんが、ソースを見るだけなら問題はありません。このソースビューアコンポーネントを組み込んで書庫内のファイルをローカルディスクに解凍せずに見られるのではないかと思ったのが開発の端緒でした。

統合アーカイバプロジェクト (<http://www.madobe.net/archiver/index.html>)

圧縮/解凍に関連した DLL の API の共通化を図っているプロジェクトです。国内で配布されている圧縮/解凍アプリケーションのほとんどがここで配布されている DLL を使用する前提で作成されています。ここで配布される DLL はそれぞれ異なる仕様で実装される圧縮/解凍のためのアーカイバのコマンド体系を共通の API で提供されております。

使用環境に適した圧縮/解凍アプリケーション

どのような圧縮/解凍アプリケーションを使用するかはそれぞれの使用する人の好みがあります。圧縮機能と解凍機能のどちらに似重点をおくか、処理スピード、圧縮効率、汎用性などおそく使

用者個々の好みに合ったアプリケーションを使用していることと思います。このような状況で新しいアプリケーションを提供することはあまり意味がないように思えます。

ダウンロード圧縮ファイルの管理

記憶容量(ハードディスクなど)の大型化と低価格化が進んでいる現在であっても、不必要なデータ(ファイル)を持ちたくないと思うのは当然だと思います。皆さんはダウンロードした圧縮ファイルをどのように管理されているのでしょうか。当然 1 度は解凍しているはずですが、その場合には元の書庫(圧縮)ファイルと展開されたフォルダの2種類のデータが存在します。その後、この 2 つのどちらかを削除すればよいのですが、解凍したデータを残してオリジナルの書庫ファイルを削除すると場合によってはオリジナルの数倍から数十倍のディスクスペースが消費されます。また、反対にオリジナルを残すとなると次に使用するとき再度解凍を行うことになります。たとえば書庫内の1ファイルを印刷したいときなどはすべてのファイルを解凍することになります。Windows で行っているように圧縮ファイルをフォルダのように扱ってエクスプローラで閲覧する方法が理想的ですが、現在は Zip 形式のみの対応です、一時フォルダを使用して実際に解凍を行っています。

セキュリティ上安全な表示機能に特化した機能の提供

圧縮ファイルをダウンロードして利用する立場で考えると、解凍しないと内容が確認できません。そのためダウンロードしたファイルはとりあえず解凍して内容を見ることになりますが、とくにそのファイルが自己解凍ファイル(Exe ファイル)である場合には、セキュリティ上の不安を持つのではないのでしょうか。先に述べた統合アーカイブプロジェクトで提供される API を使用すれば解凍することなく圧縮ファイルの内容を調べることができるようになっています。また、『ExtractMem』という API があり(すべての DLL が完全対応しているわけではないのですが)、この API を使用すれば書庫ファイルの中のテキストベースのファイルをメモリー上に展開して内容を取得することも可能です。

目標としたアプリケーション像

- エクスプローラ風のなじんだインターフェースの実装
- 使い慣れた圧縮/解凍ツールとの連携(実際の解凍はそちらで行う)
- ReadMe ファイルやソースファイルなどのテキストベースファイルの解凍を行わない閲覧/印刷/保存
- セキュリティの最大重視
- 国内で使用される代表的な圧縮形式への対応

インストール(圧縮ファイルバージョン)

このバージョンでは、Windows のレジストリは使用しません。ダウンロードしたファイルを適当なフォルダに解凍して使用します。

デスクトップにショートカットを作成する場合には、解凍したフォルダをエクスプローラで開き、Exe ファイルを選択してマウスの右クリックで表示されるコンテキストメニューで『送る』『デスクトップ(ショートカットを作成)』で行ってください。

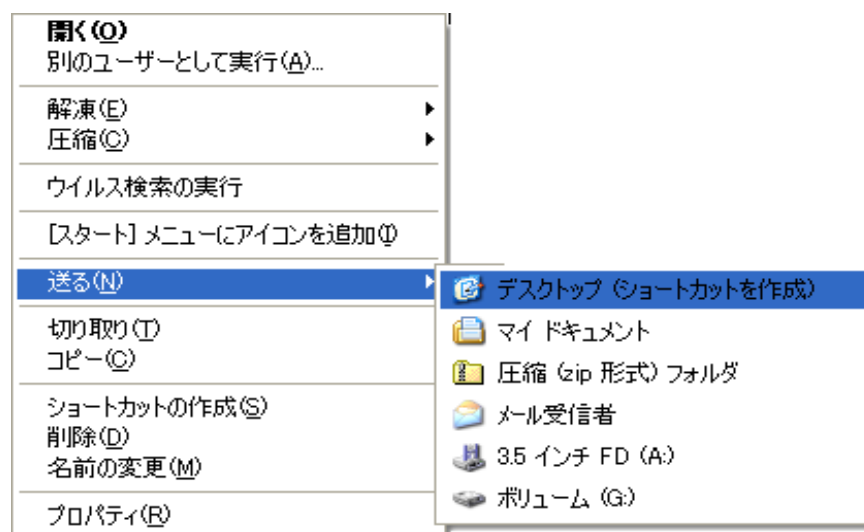


図 1. デスクトップへのショーカットの作成

アンインストール

使用しなくなったら、作成したフォルダごと削除します。インストールの章で述べたとおりこのバージョンではレジストリを使用しませんのでレジストリのクリーンアップは必要ありません。

インストールしたフォルダには、アプリケーションが作成した『YUaiArcViewer.ini』というファイルが作成されますのでこのファイルも削除してかまいません。

ほかに必要な DLL

このアプリケーションでは一定のアーカイバ用の DLL が必要です。インストールされている DLL によって閲覧できるファイルの種類が限定されます。

拡張子	DLL 名	Download URL
LZH	UNLHA32.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/unlha32.html
ZIP	UNZIP32.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/unzip32.html
JAR	7-ZIP32.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/7-zip32.html
EAR		
WAR		
7Z		
CAB	CAB32.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/cab32.html
YZ1	YZ1.DL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/yz1.html
YZ	YZ2.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/yz2.html
ARJ	UNARJ32J.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/unarj32.html
TAR A LIB DEB RPM CPIO	TAR32.DLL	http://www.csdinc.co.jp/archiver/lib/tar32.html
Z GZ TGZ TAZ	TAR32.DLL	同上
BZ2	TAR32.DLL	同上

このアプリケーションは、書庫の作成や解凍を目的としているわけではなく、すでになじんだアーカイブ用アプリケーションを使用しているユーザーを対象としていますのでこれらのほとんどはインストール済みという前提で進ませていただきます。

アプリケーションの起動と終了

アプリケーションの起動

アプリケーションは、以下の4つの方法で起動できます。

1. インストールしたアプリケーション(Exe)ファイルを直接起動する。
エクスプローラでインストールしたアプリケーションファイルをダブルクリックするか、『スタート』『ファイル名を指定して実行』でフルパスでアプリケーションファイル名を入力する。
2. インストールしたアプリケーションファイルのショートカットから実行する
デスクトップなどにショートカットを作成してショートカットをダブルクリックして起動する。
3. エクスプローラで書庫ファイルを選択して、コンテキストメニューの『プログラムから開く』でアプリケーションファイルを指定して開く。ただし、この方法が使用できる書庫ファイルの種類はご自身のマシン環境などで異なります。
4. アプリケーションファイルのアイコンやデスクトップにショートカットを作成した場合には、デスクトップのショートカットアイコンに別のエクスプローラで書庫ファイルを選択してにドラッグ&ドロップする。

そのほかに、高度な使用方法としては、ユーザープロファイルの SendTo にアプリケーションのショートカットを登録して、エクスプローラのコンテキストメニューの『送る』メニューから起動する方法もあります。



図 2. デスクトップのショーカット



図 3. 起動画面

書庫ファイルの読み込み

書庫の閲覧は、前項の説明のとおり起動時に読み込む方法もありますが、通常はメインメニュー/ツールバーから行います。一般的な読み込み方法として

1. ファイルを指定して開く
2. 過去の履歴から開く
3. エクスプローラからドラッグ/ドロップする

の3つの方法があります。

アプリケーションの終了

アプリケーションの終了はメインフォームのファイルカテゴリメニューの『終了』メニューで終了します。

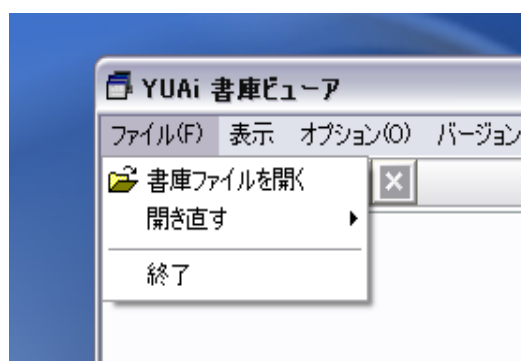


図 4. 終了メニュー

フォーム概要

この章では、フォームを中心にした解説を行います。

このアプリケーションで使用されているフォームは

1. 書庫ビュー
2. テキストビューア
3. プレビュー
4. 設定フォーム
5. アーカイバ DLL 情報フォーム
6. バージョン情報

の 6 つがあります。

メインフォーム

このアプリケーションは、「タブ切り替え型 MDI」タイプのアプリケーションです。アプリケーションでは複数の書庫ファイルを読み込み、タブの切り替えで書庫ビューアが切り替わります。

未編集(初期)画面

直接アプリケーションを起動した場合には以下のようなメインフォーム(画面)が表示されます。

2. 書庫内ツリー
書庫内のサブフォルダ単位にツリー表示されます。
最上位にある書庫名に Windows コンテキストメニューがアタッチされていますので、コンテキストメニューに対応した解凍アプリケーションがあればここから直接解凍することができます。
3. フォルダファイルリスト
リスト表示とアイコン表示の切り替えができます。
ここで選択されたファイルを
テキストビューで見る 印刷プレビューで見る 印刷する
ディスクに解凍して関連付けされたアプリケーションで実行する
ことができます

テキストビュー画面

書庫ビュー画面のフォルダファイルリストで選択したファイルをテキストビューアで表示します。



図 7. テキストビューア(Cソースファイル表示)

テキストベースのファイルであれば表示が可能です。日本語のファイルでは文字コードを指定して再表示できますが、自動判別モジュールを組み込んでありますので自動判定させて表示することも可能です(オプション設定時)

C/C++, JAVA、Object Pascal については構文強調されて表示されます。

また、この画面から

1. ディスクへの保存

2. プレビュー付で印刷

ができます。

印刷プレビュー画面

テキストビュー画面で表示されたテキストをプレビューして印刷します。

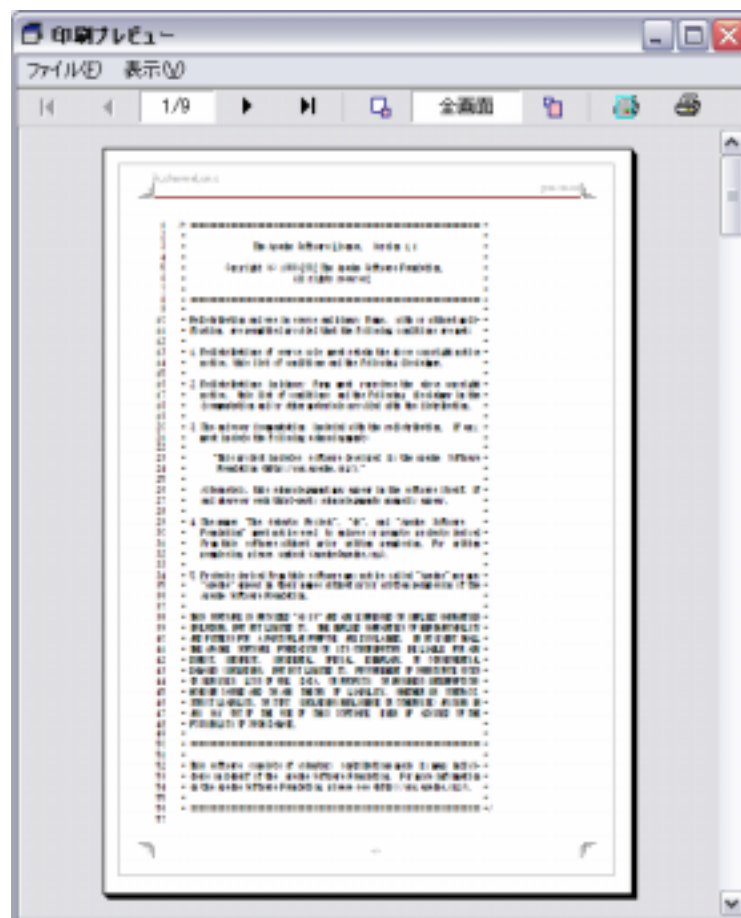


図 8. プレビュー画面(行番号オプション有効時)

環境設定画面

アプリケーションの環境を設定する画面です。

1. アプリケーション全体

2. テキストビューアオプション
3. プレビュー/印刷設定オプション

の3つに分かれています。

メインメニューの「オプション」メニューから開くことができます。



図 9. プレビュー設定画面

アーカイバ DLL 情報

アーカイバDLL情報

☒インストール済みDLLのみ表示

DLL名称	対応形式	インストールフォルダ	バージョン
UNLHA32.DLL	lzh 形式書庫	C:\Windows\system32	1.96
UNZIP32.DLL	ZIP 形式書庫	C:\Windows\system32	5.4
7-ZIP32.DLL	7z/Zip 形式書庫	C:\Windows\system32	3.13
CAB32.DLL	CAB 形式書庫	C:\Windows\system32	0.08
LNZIP32.DLL	WinLN32 形式書庫	C:\Windows\system32	1.2
BGA32.DLL	GZA/BZA 形式書庫	C:\Windows\system32	0.37
JACK32.DLL	分割ファイル 形式書庫	C:\Windows\system32	0.2
TAR32.DLL	tar/tgz/taz/tbz2 形式書庫	C:\Windows\system32	2.26
UNARJ32.JDLL	ARJ 形式書庫	C:\Windows\system32	0.58
YZ1.DLL	YZ1 形式書庫	C:\Windows\system32	0.26
YZ2.DLL	YZ2 形式書庫	C:\Windows\system32	0.12
ZIP32.JDLL	ZIP 形式書庫	C:\Windows\system32	0.37

閉じる

図 10. アーカイバ関連 DLL 情報画面

『メインメニュー』『表示』『アーカイバ情報』から開きます。

バージョン情報

バージョン情報

YUAi 書庫ビューア

Version	1.0.0.0
Copy Right	Office YUA i
More..	http://www.officeyuai.com

OK

図 11.バージョン情報画面

『メインメニュー』『バージョン』から開くことができます。

実際に使ってみる

ここでは実際の書庫ファイルを使用して一般的なアプリケーションの使い方を説明します。

難しい操作はほとんどありません。書庫ファイルを開いて表示された書庫内のファイルを開いたり、ディスクに一時的に解凍して関連付けられたアプリケーションで開くというだけのアプリケーションです。

サンプルとして使用するファイルは、「G¥:DownloadFiles¥ Apache2¥jakarta-tomcat-connectors-jk2-2.0.2-src.tar.tar」となっています。

インストールした YUAiArcViewer.exe を起動します。

書庫ファイルの読み込み

『メインメニュー』 『書庫ファイルを開く』を選択します。

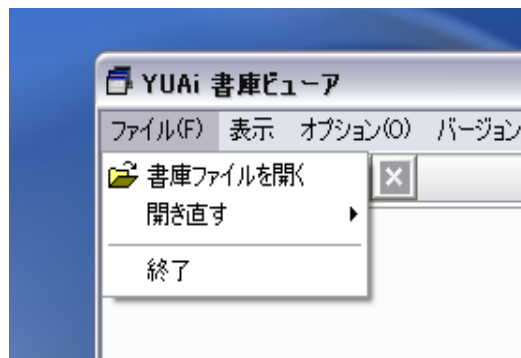


図 12. メインメニュー / 「書庫ファイルを開く」

ファイルを開くダイアログを使用して、『jakarta-tomcat-connectors-jk2-2.0.2-src.tar.tar』を開きます。

ファイルの種類が「書庫ファイル」となっていますが、



図 13. メインメニュー / 「書庫ファイルを開く」ダイアログ

目的のファイルを指定して「開く」を選択します。

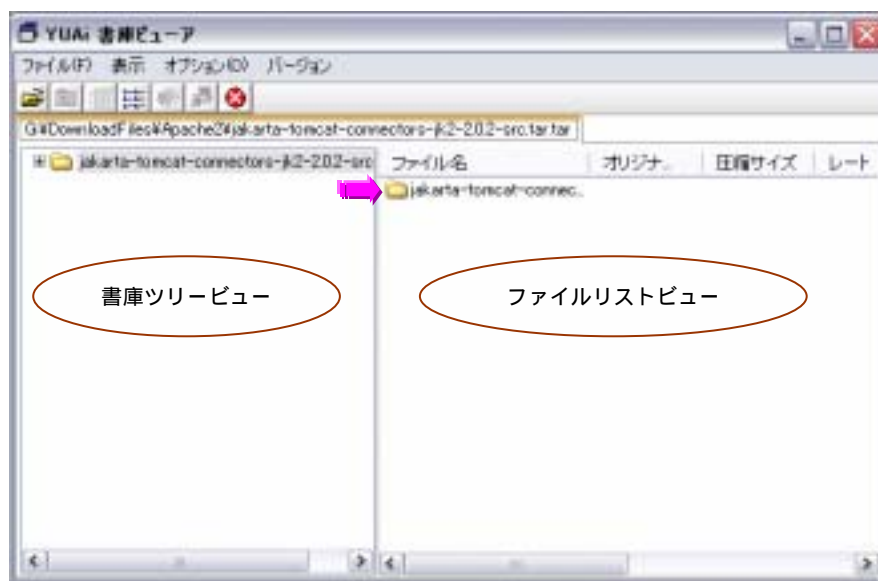


図 14. 書庫ファイルを開いた画面

新しいタブが追加されてビューアが開きます。

書庫ファイルの内容を見る

「jakarta-tomcat-connectors-jk2-2.0.2-src.tar.tar」ファイルには「jakarta-tomcat-connectors-jk2-2.0.2-src」というフォルダが 1 個だけあります。上図の矢印が示している「フォルダアイコン」マークをマウスでクリックします。

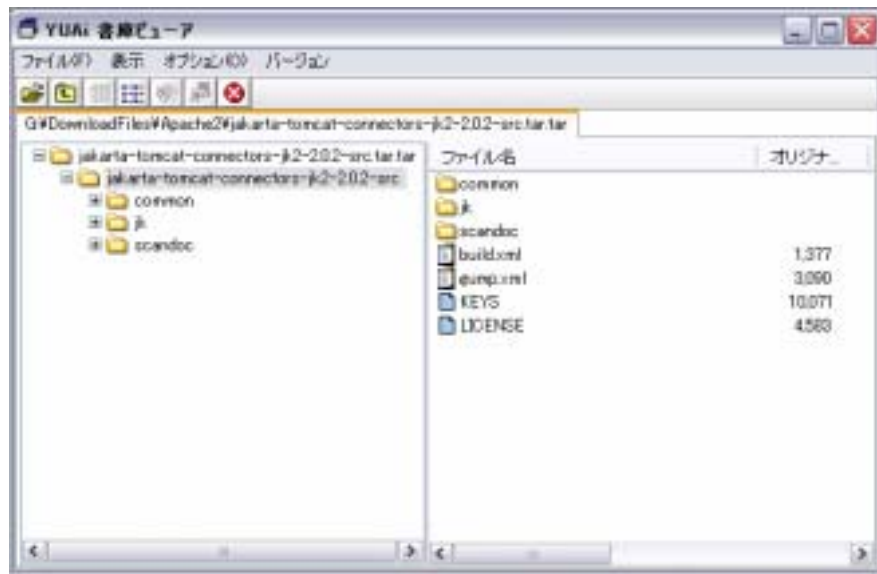




図 15. サブフォルダを展開した画面

「jakarta-tomcat-connectors-jk2-2.0.2-src」フォルダは

- (フォルダ) Common
- (フォルダ) JK
- (フォルダ) scandoc
- (ファイル) build.xml
- (ファイル) gump.xml
- (ファイル) KEY
- (ファイル) LICENCE

という構成になっています。

フォルダ(サブフォルダ)はフォルダアイコン  が表示され、Windows が認識しているファイル(拡張子)にはデフォルトのアイコンが表示されています。その他の不明なファイルには  アイコンが表示されます。

フォルダ(サブフォルダ)アイコンをクリックするとそのフォルダの内容がファイルリストビューで表示され、書庫ツリービューのツリーが同期して展開していきます。

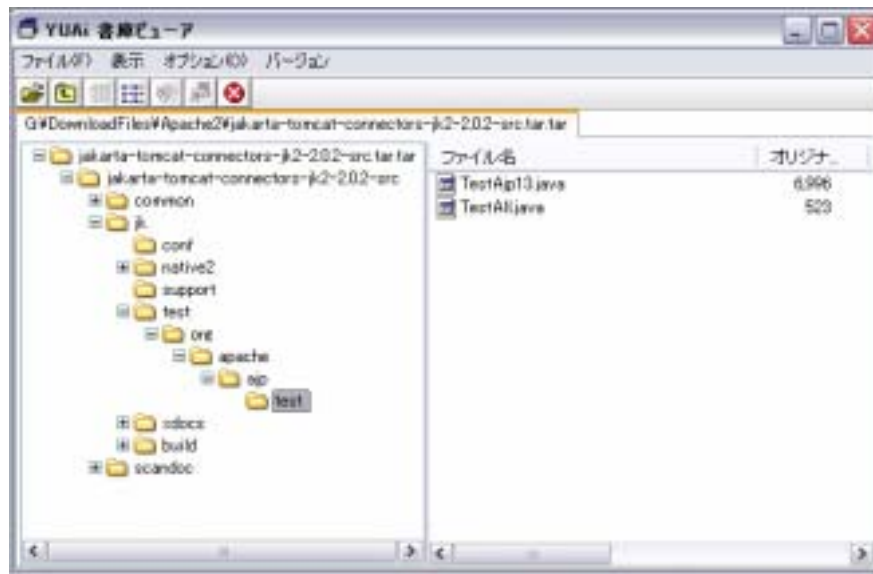


図 16. Java ファイルのあるフォルダ

このアプリケーションでは、書庫ファイルの中のファイルを見るため2つの方法があります。

1. メモリに展開してテキストビューアでみる
テキストファイルだけしか表示できないが、セキュリティ上安全である
2. ディスクに一度解凍して関連付けられたアプリケーションで開く
インストールされているアプリケーションが対応しているファイルであればそのアプリケーションが起動されて内容を見ることができるが、セキュリティとしては安全とはいえない。

ファイルをメモリ展開して開く

テキストビューア

書庫内のテキストファイルをディスクに解凍することなく内蔵のテキストビューアで表示ができます。書庫ファイルにパッケージされたファイルをテキストとしてバッファに読み出すため非常に安全です。念のため、実行ファイル判定モジュール(単にファイル拡張子で判断するのではなくファイルが実行形式かどうかを判定します)を通しています。実行ファイルを指定するとメッセージが表示されます。

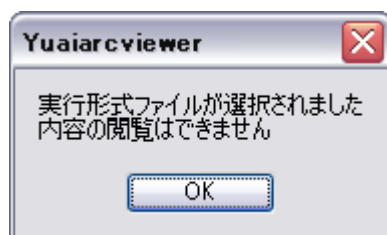


図 17. 実行ファイルを開こうとした

正しく表示できるのはテキストファイルで、文字コードが SHIFT-JIS であるか、自動判定が設定されていて正しく文字コードが判定できた場合です。

その他のファイル、たとえばバイナリファイルなどが指定された場合には最初の#0 コードまでしか読み込まれないため、大半は最初の数バイトだけ読み込まれます。

最大バイトを1M バイトに設定してあるため、大きなファイルを読み込んでもシステムに負担がかかることはありません。

起動方法はファイルリストビューで目的のファイルを選択して

1. マウスでダブルクリックする
2. ファイルリストビューのポップアップメニューの『メモリ展開表示』を選択
3. メインメニューの『表示』『メモリ展開表示』を選択
4. ツールバーのツールボタンを選択

することで実行されます。

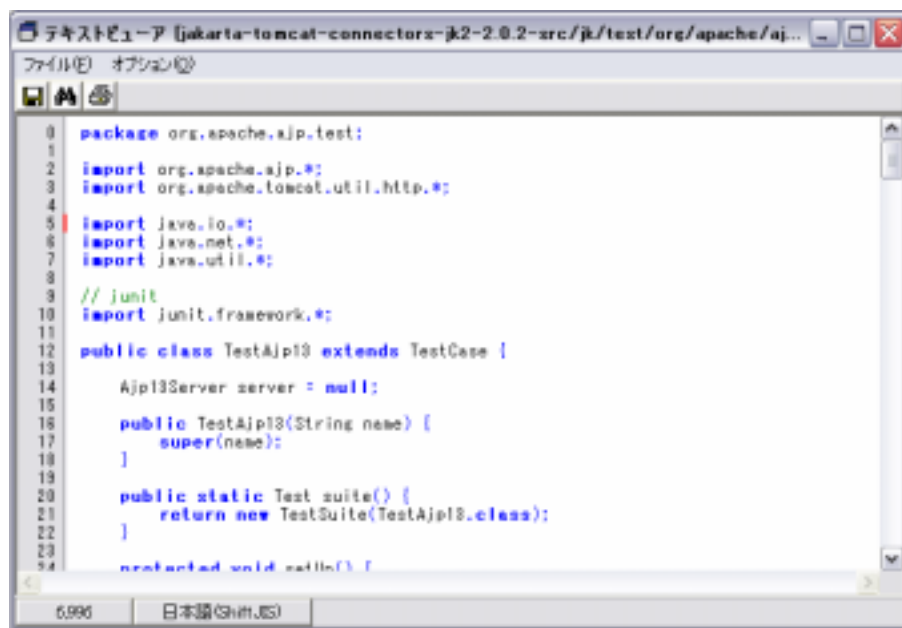


図 18. Java ソースファイルをメモリ展開して開いた画面

C/C++/JAVA/Object Pascal のソースファイルは構文強調機能を使用できます。その他のファイルでは URL アドレスと Mail アドレスを強調表示して、URL アドレスの場合にはデフォルトブラウザを起動させて表示するリンク機能、Mail アドレスの場合にはデフォルトメーラーを起動させるリンク機能を使用できます。

テキストビューアはカスタマイズが可能です。詳細は後述します。

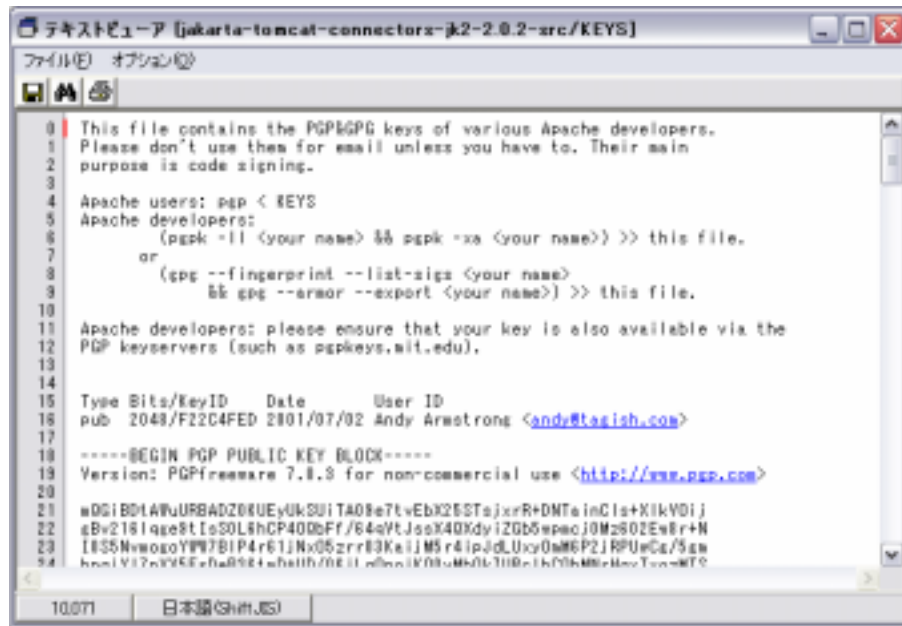


図 19.URL リンク強調の画面

テキストビューアで検索



図 20.検索設定画面

使用可能な検索は単純な検索だけです。正規表現などは使用できません。

テキストビューアから保存

テキストビューアは、読み取り専用で開かれます。このアプリケーションの目的は、書庫ファイルを解凍せずに内容を見ることにありますので、編集を行うケースはまれであると思われますが、内容を編集するには、『すべてを選択』してコピーアンドペーストで別のエディタに貼り付けるか、一度ファイルを保存して編集する必要があります。

テキストビューアから印刷

readme ファイルなどを印刷するケースは多いと思い、プレビュー付印刷フォームが使用できるようにしてあります。

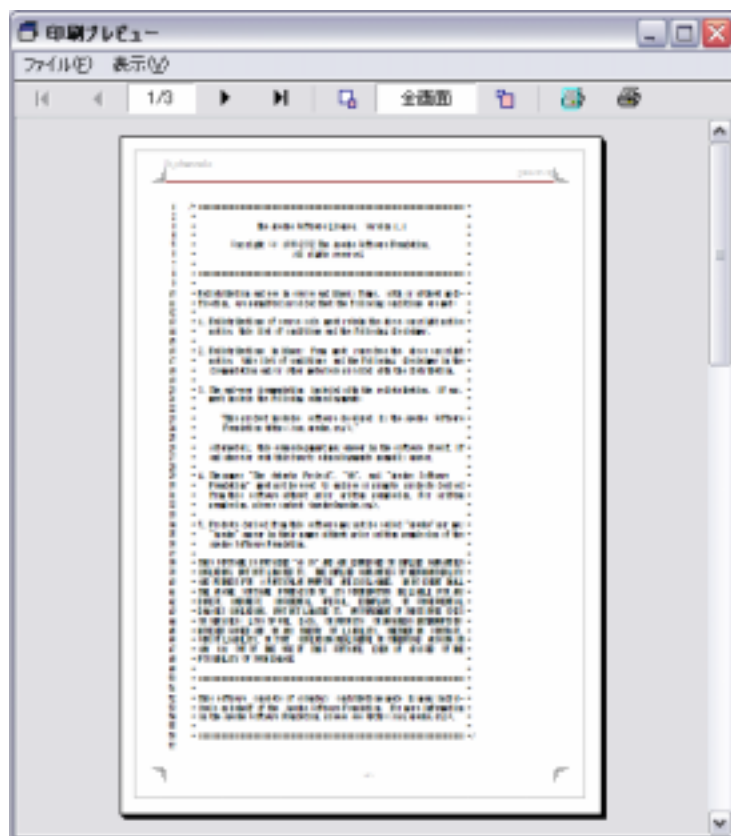


図 21.プレビュー画面

印刷/プレビュー画面は余白/ヘッダ・フッタなどの詳細設定が可能です(後述)が、行番号の印字オプションはこの画面で一時的に変更することも可能です。

ディスクに解凍してアプリケーションから開く

前項でテキストビューアを使用したファイル内容の閲覧を説明しましたが、ダウンロードファイルなどではよくヘルプファイルなども同梱されています。このようなファイルを閲覧する機会も多くあります。そのようなケースを想定してディスクに一時的に解凍して内容を閲覧できるようにします。

一時的にせよローカルマシンに解凍するのでセキュリティ上多少の問題があるかと思います。

起動方法はファイルリストビューで目的のファイルを選択して

1. ファイルリストビューのポップアップメニューの『ディスク展開表示』を選択
2. メインメニューの『表示』『ディスク展開表示』を選択
3. ツールバーのツールボタンを選択

することで実行されます。

その際に確認メッセージが以下のように表示されます。

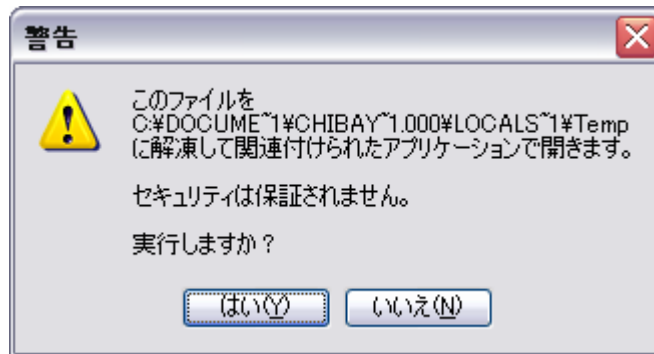


図 22.ディスク解凍確認画面

その後、ディスクに解凍され、Windows で関連付けされたアプリケーションが起動されます。

Windows で関連付けされたアプリケーションがないファイルを実行した場合にはエラーメッセージが表示された後中断されます。

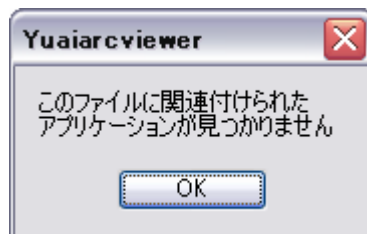


図 23.エラー表示画面

詳細設定

アプリケーションを快適に使用するための設定を行います。

一般オプション設定

メインメニューの「オプション」→「環境設定」から行います。

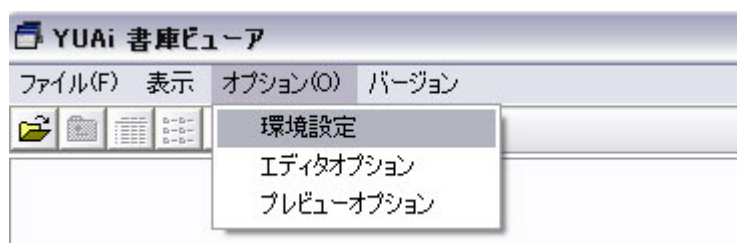


図 24.環境設定起動画面

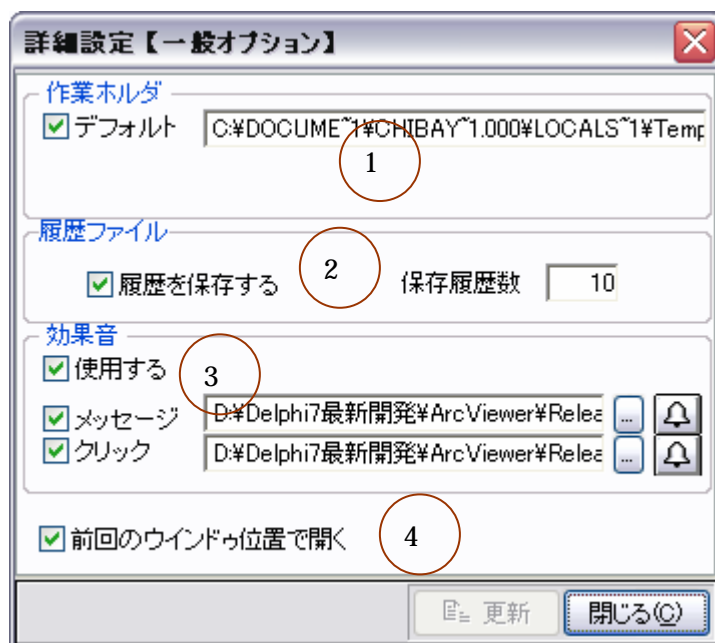


図 25. 一般オプション設定画面

1. 作業フォルダ
ディスク展開表示の際の作業用フォルダを設定します。
デフォルトに Check をするとローカルセットアップの Temp フォルダを使用します。(WinZip

が使用するフォルダです)

ほかのフォルダを使用したい場合には Check をはずして任意のフォルダを設定できます。

2. 『開きなおす』メニューを使用するかどうかの設定と、使用する場合の最大記憶数を設定します。
3. 効果音の設定を行います。
使用する場合には使用する Wav ファイルを指定します。
4. フォーム位置の復元
前回終了したフォーム状態を起動時に復元するかどうかの設定を行います。

組み込みエディタオプション設定

メインメニューの『オプション』『エディタオプション』から行います。



図 26. エディタオプション設定画面

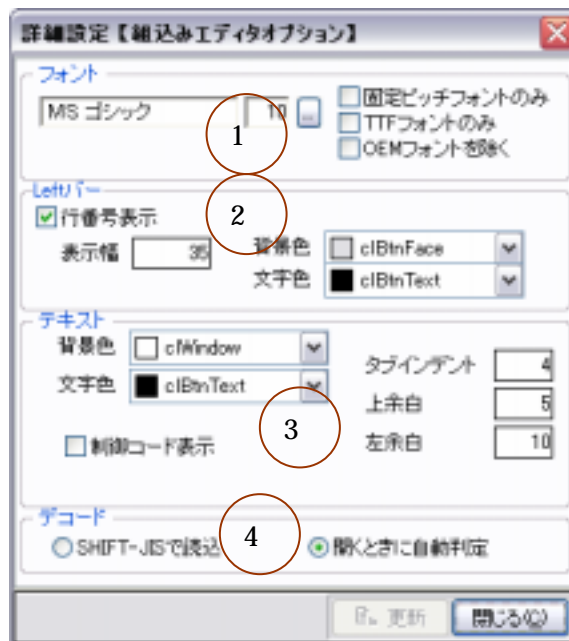


図 27. エディタオプション設定画面

1. 表示用のフォントを指定します。
ソースファイルなどは固定ピッチフォントのみに Check して「…」ボタンをクリックしてフォントダイアログを表示できます。
2. Left バーオプション
エディタの左側に行番号用のエリアを表示するかどうかの設定を行います。
3. 表示用の色と余白を設定します。
4. テキストビューアは Shift-JIS を使用して表示します。
作成された文字コードがこれと異なると表示されるビューアで文字化けが起こります。
「開くときに自動判定」オプションを有効にしておくで自動判定モジュールが作動して判定処理を行い、判例結果に基づいて Shift-JIS に変換して表示します。ただし、完全な判定は困難で誤判定する可能性があります。そのときにはビューアのメニューで文字コードを手動で設定しなおすこともできます。

プレビューオプション設定

メインメニューの『オプション』『プレビューオプション』から行います。

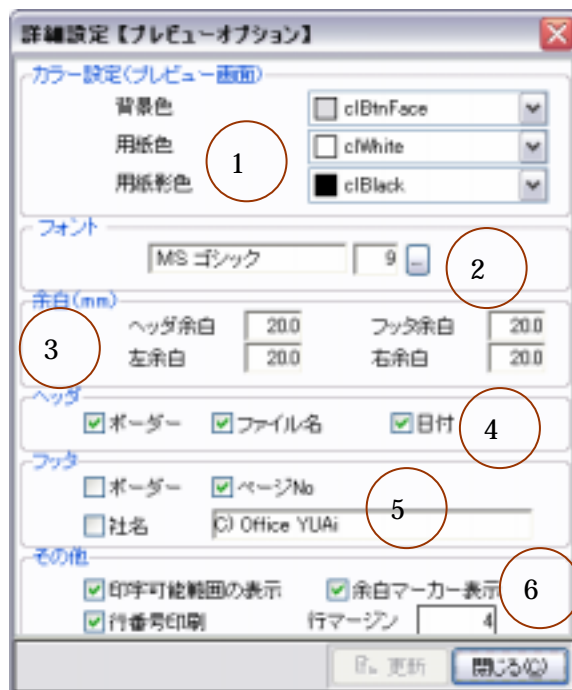


図 28. プレビューオプション設定画面

ここで設定する値は印刷に影響するものとプレビュー表示画面だけに影響を与えるものの 2 種類があります。

1. プレビュー画面カラー設定
この設定はプレビュー画面だけに影響があります。
ここで背景色を変更しても、実際に印刷されるときにその色で用紙が塗られることはありません。
2. フォントの設定
印刷で使用するデフォルトフォントを指定します。
3. 余白の設定
上下左右の余白をmm単位で指定します。余白の指定では使用するプリンタで印字可能範囲が異なりますので「その他」の設定で、印字可能範囲の表示をオンにして一度プレビューして全ての範囲が印字可能範囲に収まるように設定する必要があります。
4. ヘッダ設定
現バージョンのアプリケーションではヘッダ/フッタ項目はあらかじめ用意された項目を選択して表示する仕組みとなっています。どのように表示されるか確認して設定してください。
5. フッタ
6. その他

印字可能範囲	プリンタで異なる印字可能領域を表示します (印刷されません)
余白マーカー	トンボの表示/非表示 (印刷されません)
行番号	ここで設定して、印刷のたびに変更することも可能です
行マージン	行間の設定を行います

メイン画面詳細

メイン画面は書庫ファイルを開覧するためのものです。

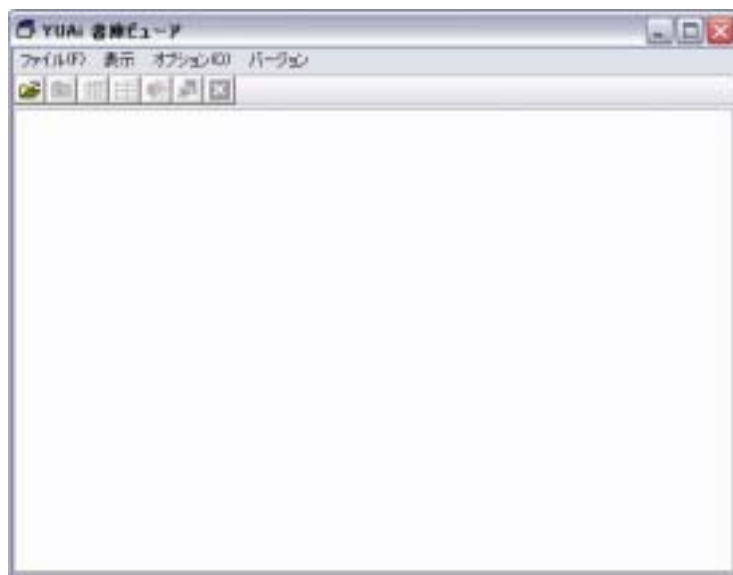


図 29. 起動直後のメイン画面

メインメニュー

ファイルメニュー

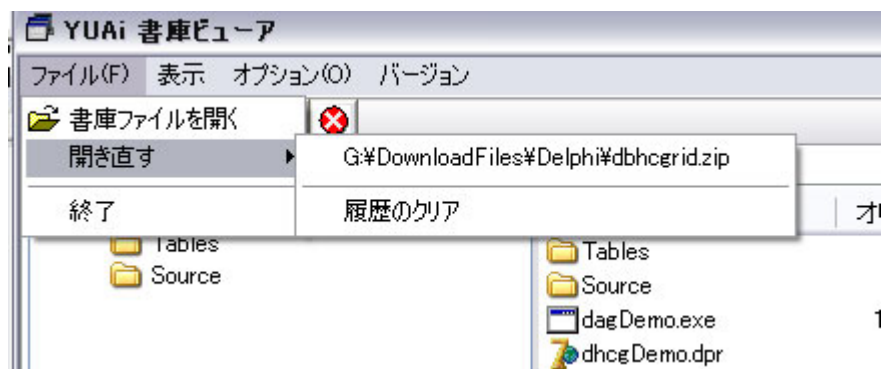


図 30. ファイルメニュー展開画面

1. 「書庫ファイルを開く」
「ファイルを開く」ダイアログが表示され、そこで選択されたファイル(複数ファイルの選択も可能)を開きます
2. 「開きなおす」
一般オプション設定で『履歴を保存』に設定するとこのメニューのサブメニューとして、過去に開いたファイル名が表示されます。『履歴のクリア』サブメニューで履歴がクリアされます。
3. 「終了」
アプリケーションを終了します。

表示メニュー

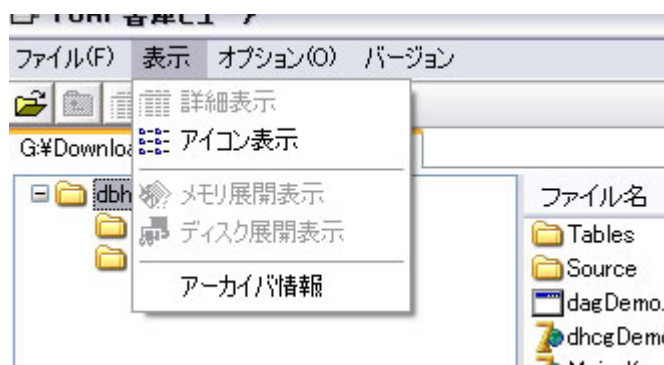


図 31. 表示メニュー展開画面

1. 詳細表示
ファイルビューリストの表示方法を詳細モードにします
2. アイコン表示
ファイルビューリストの表示方法をアイコンモードにします
3. メモリ展開表示
ファイルビューリストで選択されているファイルをテキストビューアで表示します
4. ディスク展開表示
ファイルビューリストで選択されているファイルを解凍して関連づけられたアプリケーションで開きます。
5. アーカイバ情報
使用マシンにインストールされているアーカイバ DLL 情報を表示するためのフォームを表示します

オプションメニュー

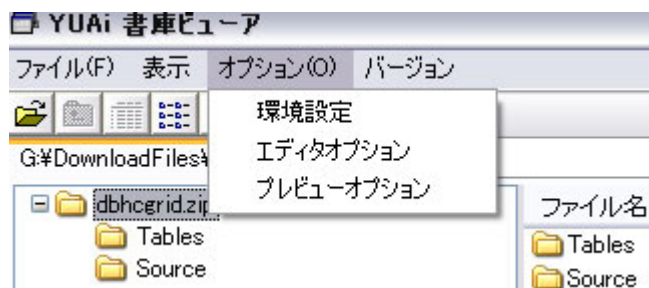


図 32. オプションメニュー展開画面

1. 環境設定
アプリケーションの一般オプションの設定をするためのフォームを表示します
2. エディタオプション
テキストビューアのオプションを設定をするためのフォームを表示します
3. プレビューオプション
プレビュー/印刷の設定をするためのフォームを表示します

バージョンメニュー

アプリケーションのバージョン情報フォームを表示します。

コンテキストメニュー

ツリービューの最上位(ルート)項目を選択してマウスを右クリックすると Windows コンテキストメニューが表示されます。Windows コンテキストメニューを使用している解凍アプリケーションがあればここから直接解凍することができます。LHAPlus などのアプリケーションではコンテキストメニューに解凍のためのメニューを登録しています。これらのアプリケーションがインストールしてあればこれを利用して書庫ビューアを起動したまま解凍することができます。

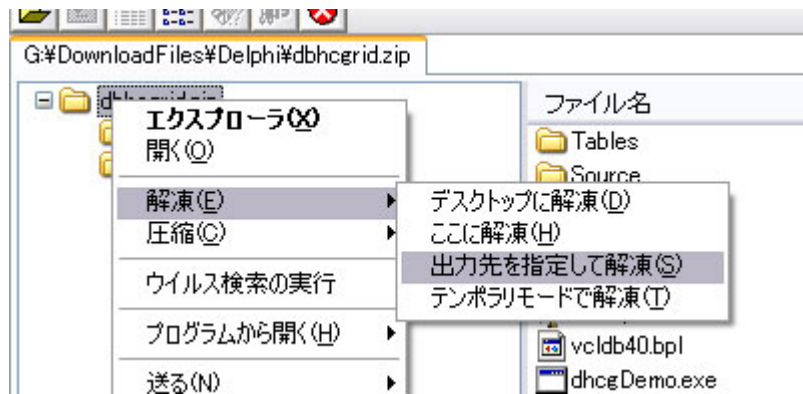


図 33. コンテキストメニューを使用して解凍する